

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 205 号	2018年8月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：原谷 一誠
---------------------------	-------------	--

1. 活動報告（事務局 記）

- 7月25日（水）田んぼ周囲の草刈りのあと、電気柵取付を完了しました。夕方より電源を入れています。日没～日の出の間は、高圧電流が流れています。朝夕他注意の事。
田んぼは引き続き土用干しを再開しました。吉富・渡辺・原田マ会員で行われました。
- 7月28日（土）会員12名が参加し、駐車場の草刈り、観察路の清掃、清瀬峡の清掃、仮設トイレの撤去の作業を実施しました。本日は猛暑のため、会員の健康を考慮して早めに切り上げました。
- 8月4日（土）親子自然観察隊は水棲動物の観察でした。須賀河内川をビオトープそばから清瀬峡まで沢登りし生き物を捕まえました。幼児は親とビオトープで川に罾を仕掛けて生き物を捕まえました。捕まえた生き物は、名前を確認して川に逃がしてやりました。参加者は、子13名、親12名、山大学生3名、会員家族1名、会員8名でした。暑い中での沢登りは、子供たちに涼を与えるととても人気のイベントで楽しんでいました。
- 8月9日（木）電柵下草が伸びてバッテリー放電、充電後取付、田んぼの周囲電柵下放電防止の為、草刈り実施しました。原田マ会員にて
- 8月10日（金）水車取り入れ口以後の水路草刈りと溝あげ実施しました。原田マ会員と地区の原田武夫さん・原田蘭子さんにも応援いただきました。
- 8月11日（土）須賀河内川取水堰～第一水戸の間管理道の草刈り、同濾水箇所の修復・溝あげ実施しました。前田・若林・原田マ会員が朝早くから草刈りなど行いました。
- 8月18日（土）会員9名が参加し、観察路周辺の草刈り、田圃の虫取り、除去草の運搬および焼却の作業を実施しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

◎来訪者

予定はありません。

◎行 事

- 8月25日（土）維持活動・草刈り（駐車場・須賀河内川一部）・暑気払い
- 9月2日（日）維持活動・草刈り
- 9月8日（土）親子自然観察隊（秋の昆虫）
- 9月22日（土）維持活動（草刈り、稲刈り準備）

3. 来訪者の声

今回はありません。

4. 会員の声 「 」 (記)

今回はありません。

5. 親子自然観察隊 「水棲動物観察」

①川の探検 (関根 雅彦 記)

8月4日、梅雨明け来の猛暑も須賀河内川の探検にはもってこい。25名を超える大部隊、半数は初体験でジュニア隊員も多いですが、前週下見もしてあるので大丈夫。救命胴衣とヘルメットを着け、滑らないよう注意して出発です。梅雨末期の豪雨で、昨年とはずいぶん川の様子が違います。東屋から右岸の用水の流れ込みまではきれいな砂が堆積して浅くなっています。すぐに大きなモクズガニをGet! ドンコやカワムツもいます。小さな岩の段差を超え、ヨシの繁茂地帯を抜けると大きな石積みの落差。落差下の淵で投網を試みるも収穫なし。昨年よりだいぶ深くなっていて、救命胴衣で浮かぶ子供たちの歓声が響きます。石積みを上り、浅くなった砂底のトロを進みます。今年はヌマエビ、スジエビが目立つ気がします。礫底が現れると父滝も間近。ヨシノボリは捕れますが、例年より少なめ。父滝の淵では大物を期待して網を投げますが、普通サイズのカワムツ1尾のみ。今年は父滝右岸回り、泳ぎが必要ですがロープ不要のルートに登ります。チャレンジャーの子供たちは、いつもの左岸側からロープなしでクリア。頼もしいです。すぐに母滝ですが、ここも下の淵は例年より深く、ワイワイ登っていきます。滝上の浅く泳ぎにくくなった砂底部を過ぎ、淵の深さが増した溪流部に登ります。今年は溪流部でもカワムツが多いようです。1時間ほどでゴール! 全体に、カワムツを主として、ドンコ、ヨシノボリ、ヌマエビ、スジエビ、ヨシノボリ、カワニナ、コヤマトンボのヤゴ、マツモムシなどが捕れました。またビオトープのワナではカワムツ、ドンコが捕れていました。子供たちは楽しみながら、またケガもなく登り終え、最後の説明もしっかり聞いてくれました。良い会だったと思います。一方で、昨年捕れたオヤニラミや、一昨年のイトモロコ、ムギツク、アカザ、サワガニ、また過去よく見かけたシマドジョウなどがいないことが大変気がかりです。またビオトープの池のギンブナも捕れなくなっています。翌5日に水中眼鏡とシュノーケルをつけてビオトープ横を下流の堰から東屋まで泳ぎ上がってみました。堰～湿地帯横でカマツカを見かけたのみ。あとはすべてカワムツでした。以前はイトモロコやムギツク、オヤニラミがすぐ見つかったのに本当に魚種が減ってしまったようです。この日は4日に比べて川の流量がかなり減っている一方、ビオトープからは太陽に熱せられた温水が流れ込んでいて、これまで私自身は魚についてはあまり重要視していなかった「温暖化の影響」という言葉も頭をよぎります。豪雨の後でもあるので流されてしまっただけの可能性もあり、簡単に結論を出すことはできませんが、今後も注視していく必要があるようです。



母滝を登ります



清瀬峡のゴールで全員集合

②川の探検 (管 哲郎 記)

8月4日予定通り「川の探検」を行いました。今日も良い天気で、10:00には33℃を記録しました。子供隊員、ジュニア隊員合わせて13名、父兄12名、山口大学学生3名、一般参加1名と会員8名の参加があり、思った以上にぎやかな観察会となりました。川の中での観察会なので、直射日光の暑さは避けられ、炎天下の観察会のような熱中症の心配はありませんでした。

関根、原谷リーダーのもと、10:30にはいろんな獲物をもって無事東屋に帰ってきました。今回は父親の参加が多く、溪流部も安心だったようで、何人か東屋に居残ると思っていたのですが、1家族を除きジュニア隊員も全員探検に参加いたしました。一方、魚のトラップを6か所設置しましたが、不漁で「カワムツ大小2、ドンコ1」という有様で居残り組としては大変残念な結果に終わりました。

採集された魚類や昆虫類は「カワムツ・ヨシノボリ・ドンコ・スジエビ・ヌマエビ・モクズガニとトンボのヤゴ(コヤマトンボ)」が記録され、“オヤニラミ・アカザ・オイカワ”などの魚が見られず、魚種の減少がみられ心配されました。

11時より冷やした“ソーメン”と“スイカ”をいただき、川の探検行事を無事終了しました。事故もなく楽しい観察会でした。

暑い中、ソーメンやスイカを準備してくださった会員の皆さんや、所所の道具類を準備していただいた会員の皆さん、お疲れさまでした。暑いさなかでしたが、楽しい観察会になったようです。



探検の準備 OK です



採集した魚類の説明を受けました

親子自然観察隊の感想

★岸

初めての体験で親子共々楽しめました。こどもは特にかわの生き物を採集したのが楽しかったようです。野鳥の観察会の時もそうでしたがきちんと最後に何という生き物だったのかということをみんなに教えてくださるところがとても良いです。最後に頂いた素麺とすいかがとても美味しかったです。貴重な体験をさせていただいて感謝しております。次回の虫取り、楽しみにしております。

★有吉遼

沢登りは水が冷たくとても気持ちよかったです。深いところや滝を登るとき、ツルツルすべるところがあってスリル満点でした。魚もとれて、楽しかったです。

★溝邊寛人

ドンコかと思ったら、珍しいヨシノボリで違いなども教えてもらいながら採取ができ楽しかったです。

★溝邊義人

水辺の生き物観察をずっと楽しみにしていました。魚を捕まえたり、滝を登ったり楽しかったです。

★溝邊恵（母）

ビオトープをつくる会みなさんのおかげで安全に楽しく川登りができました。この日を子供たちはとても楽しみにしていました。毎回様々なことを教えていただき、子供たちが自然の中で体験しながらたくさんを学んでいます。ありがとうございました。

6. ピオトーブ関連：「山口県の昆虫たち」 （管 哲郎 記）

(32) ミヤマクワガタ *Lucanus maculifemoratus* Motschulsky

甲虫目（鞘翅目） クワガタ科

カブトムシ、クワガタムシの生態については筆者よりも皆さんのほうがより詳しいのではないかと思います。人為的な飼育地ではなく自然の森で発見したものを紹介します。

成虫は6月～9月にかけて日本全土で見られます。亜高山から平地の森林に生息し、特にハルニレやクヌギなどの樹液に集まります。雄の頭の格好が独特で、やはりツノの形とともに大変存在感があるクワガタです。

近頃では「昆虫の森」、「昆虫王国」といった人為的に飼育し、有料で昆虫を見せ売買している施設があちこちに見られます。それらの施設を運営しておられる方々が自然林に入りカブトムシやクワガタムシを根こそぎ採集してゆかれるということも耳にします。

私たちも山に入りますが、自然林でこれらの昆虫を見かけることが少なくなってきました、20～30年前はもっと多くの場所で見られたのですが、とても残念ですね。しかし、山口県は結構山が多く“自然林”が多く残っているようです、私たちの知らない場所でこれらの甲虫が生き延びていることを祈っておきましょう。



ミヤマクワガタ♂3態（萩市）



↓ミヤマクワガタ♀（下関市）



7. 会よりの連絡事項

- 1、8月25日 酷暑の中の活動に謝意を表すため「暑気払い」を行います。焼肉ほかアルコール分もあります。車でのお越しは乗り合わせの上参加願います。

費用については必要ありません

2、稲作体験で一言

イ) 長く続いている日照りで稲の生育は順調ですが、水不足が続く下流の田圃と水の調整に毎日お互い手間取っています。

降雨が引き続いてない様であればポンプアップする作業が加わってきますご協力をお願いします。

ロ) 今年はいナゴが遅ればせながら増殖しています。毎年の厚東川中学校イナゴ捕獲作戦ボランティアも無かった事で、更に増えていきそうです。

8. 編集後記

今年の夏は今まで以上に暑い、中国地方は豪雨災害で梅雨が明け、復旧作業も進むかと思われたが異常な猛暑に襲われボランティアも少ないと聴く、そんな中、各地で気温が40度近く上がる、でもまだ学校は夏休みも始まって無い。そうまだ夏は始まったばかり。そして猛暑がつづき、いつもと逆方向から台風が来たりと、この先地球環境はどうなる事やら。先日、島根県に家族で出かけた時、海が綺麗なので車を止め皆で砂浜を水辺まで歩いてみた、自分は靴を脱ぎ、裸足で歩いた？もちろん50年以上生きてるのだから夏の砂浜が暑いことは承知の上だ。だが熱すぎる。走って海に行き足を浸け、そして走って影まで戻った。靴を履き歩くと、足の裏に異変が、火傷で水膨れです。もう昔と砂浜も違うようだ。まあしょうがない、温暖化対策は進んでないのだから。また来年はさらに暑くなることだろう。

(若林 正治 記)